

あたたかい子  
かしこい子  
たくましい子

学校だより

# つよし

—第31号—

令和4年11月21日  
平戸市立津吉小学校  
文責 校長 田川定司

## ふるさと教育

ふるさと津吉の「ひと・もの・こと」は、本校の子供たちを心豊かに育むための有益な教育資産です。しかし、コロナウイルス感染症対策で、津吉茶市などの地域の行事や通学合宿が中止になったり、入学式・卒業式・運動会などの学校行事に地域の方の招待がここ3年できなかつたりするなど、地域の交流が滞る事態が続いています。

全国学習状況調査では、「地域の行事に参加していますか」の質問に対して、「参加している」と答えた子供の割合が、コロナ前の令和元年度に比べてコロナ禍の今年度は、全国的にも津吉小学校でも極端に低くなっています。津吉小学校に限ってみると、下記の通り、地域の行事に参加している割合は、全国に比べて高くなっています。

【全国学習状況調査】地域の行事に参加していますか？	津吉小	長崎県	全国
令和元年度（コロナ前）	89.5	69.3	68.0
令和4年度（コロナ禍）	64.0	53.6	52.7



様子を本当にありがたく思っています。『私たちの町、津吉』ならではの貴重な文化遺産や豊かな自然環境に触れ、風習や文化、歴史の変遷などを理解し、さらに、ふるさとを愛する心を育ててほしいと思います。

「人は人を浴びて人となる」という言葉のとおり、子どもたちは「人との関わり」の中で成長し、人間性を高めていくものです。予測困難な時代を生きようとする子供たちにとって、「ふるさと」への思いを原動力として生きる子供たちの育成に努めるとともに、「地域とともにある学校づくり」を目指していきたいと考えています。

ユネスコ（国連教育科学文化機関）の「無形文化遺産」に、「平戸のジャンガラ」などの日本の伝統的な踊り「風流踊」が登録される見通しとなりました。ジャンガラは、本校3年生・4年生が総合学習で取り組むなど平戸市内各地で伝承されています。また、先週は、校区内3地区の神社の例大祭があり、多数の児童が参加しました。津吉小学校の子供たちが、地域の伝統文化を体験する機会も数多くあり、温かく地域の中で育まれている

